

さんむのふるさと散歩

NO.24

道しるべ(道標)をたずねて見ませんか!

市内にはあまり見られなくなり、また道標について紹介しましょう。私たちの祖先が残した石造物は、それぞれの時代の人々の願いや信仰から立てられ、現在に至っています。道標のほか庚申塔、供養塔、巡拝塔、地藏塔などがありますが、それぞれ当時の歴史を語り、石と人々の関わり的一端が窺われます。

道標は、古老の人たちは、「みちおせえ」ともいいます。文字どおり道案内のために立てられたものです。これらは純粋な道案内のほか道標を立てることにより功德を得たいという願望を表したものもあります。



松尾庁舎敷地内 巡拝塔
文政12年(1829)

市内には現在残っている道標はおよそ47基が確認され、成東地区9基、山武地区9基、松尾地区28基、蓮沼地区1基で、現在遺存しているものでは松尾地区が最も多いようです。

時代別一覧

	江戸	明治	大正	昭和	不明	計
成東	0	1	6	0	2	9
松尾	7	2	15	4	0	28
山武	5	0	2	1	1	9
蓮沼	0	0	0	0	1	1
計	12	3	23	5	4	47

時代別に分類すると、江戸期が12基(松尾7・山武5)、明治期は3基(松尾2・成東1)、大正期が23基(松尾15・成東6・山武2)、昭和期が5基(松尾4基・山武1基)で時期不明のもの4基(成東2基・山武1基・蓮沼1基)が現存しています。石材は、砂岩や花崗岩が多く軟質

のためか、近年の酸性雨によるものでしょうか、腐食が進み崩落も見受けられます。

①「松尾町山室 庚申塔



前



右



左

郷中安全祈収
東 北
姥山 中台
横芝 芝山

寛政十二庚申
西 山室
三月 佐倉
吉日 吉倉

ここで一例を紹介しましょう。

図1の写真は松尾町山室に所在します道標で、寛政12年(1800)の年号が記されています。この庚申塔は道標を兼ねたものです。松尾地区ではこれのみが現存しているもので、貴重な道標と言えます。場所は、成田・松尾線の有料道路、松尾横芝インターチェンジを過ぎて、しばらく成田方向に向かい、右前方に高圧送電線が目に入りますのでその高圧線の手前、約150m位の変則十字路(左右は小さい道路)を左折して約300mの右手に見えます。機会がありましたらご覧ください。

市内にはまだまだ多数の道標が立てられていたようですが、道路工事や土地整備などの開発工事に伴い失われたようです。しかし、土地所有者や立てられた家族、近隣の方々が保存の努力をして現存しているものもあります。これらの石造物を皆さんと共に後世に伝えていきましょう。

参考
石造物シリーズI 道標・道祖神
房総石造文化財研究会 加来利一
※功德(くどく) 仏語
ご利益・恩徳・恩恵の意味